

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成30年4月30日現在

今月の重点活動

■トマト JGAP認証取得

本巣市の共販トマト出荷者1戸では、平成30年1月から、県のGAPアドバイザー派遣事業を活用して、JGAP（Basic）認証取得に向け取り組んできた。

このたび、農場審査に向け準備が整ったことから、4月7日に初回審査を受けた結果、数件の是正項目はあったが重大なものはなく、早速是正処置を実施し、報告書の提出後、18日に認証取得となった。

県内のトマト生産農家としても、JGAP認証取得は先進的な事例であり、農業普及課では、今後も認証維持のための支援等を継続するとともに、地域への普及に取り組んでいく予定である。



【JGAPの審査状況】
(地域支援第三係・野村康弘)

新たなブランドづくり

■にんじん 産地戦略会議開催

4月19日に、JAぎふ鵜沼支店において、平成30年度第1回にんじん産地戦略会議を開催し、前年度の実績及び今年度の活動計画について確認し、今後の進め方等について協議した。

にんじん産地戦略会議は、選果場整備について検討を始めた平成26年度から、市、JAとの連携のもと開催しているもので、にんじん産地の生産振興やブランド化・産地PR等に関して検討を継続している。

昨年4月には、市、JA、商工会議所、東海学院大学が4者協定を締結し、人参ブランド推進連絡協議会を組織し、にんじんの日の制定による産地認知度向上やにんじんスイーツの商品化による地産地消の推進等に取り組んでいる。また同年5月には、にんじん選果場が稼働し、作付面積が拡大する等産地振興の機運が高まっている。農業普及課では、これらの活動や生産振興をサポートするとともに、生産者組織、関係機関、にんじんブランド推進連絡協議会等との連携を支援し、産地強化に引き続き取り組んでいく。



【会議の様子】

多様な担い手づくり

■えだまめ 岐女短でレクチャー

4月19日、岐阜女子短期大学において、岐女短生協ピーチクラブの学生を対象に、JAぎふ及び農業普及課の担当者から、JAぎふえだまめ部会の取組や産地概要などの講義を行った。

この取組は、えだまめの農業体験を通じて、ものづくりの大変さや重要性、食の意味などを考えてもらうことを目的としており、今年で7回目となる。

今後も、農業普及課では、えだまめの定植作業や収穫体験などを通じて、食農教育支援を行っていく計画である。



【えだまめの講義】

(園芸産地支援第一係・川部 知)

売れるブランドづくり

■水稻 青空教室担当者研修会開催

4月12日、JAぎふアグリパークにおいて、「第1回青空教室担当者研修会」が開催され、農業普及課が講師となり、JAの営農担当者の資質向上に向けて、育苗方法や移植後のトラブル対策等について技術指導を行った。

今後も、このような研修会を開催し、水稻栽培技術の統一を図っていくこととしており、農業普及課としても、引き続き支援していく予定である。



【研修会の様子】

(地域支援第一係・小島康平)

■小麦種子生産 ほ場審査実施

4月19日、本巣市と瑞穂市で作付けされている硬質小麦品種「タマイズミ」の採種ほにおいて、出穂期におけるほ場審査を、県米麦改良協会、全農、J A、県関係機関と共に実施した。

雑草の発生が一部ほ場で見られたが、全般的には適正に管理されていた。2回目のほ場審査（糊熟期）は、5月中下旬に実施する予定である。



【ほ場審査の様子】
(地域支援第三係・飯沼清敏)

■だいこん G A P現地調査実施

4月13日、J Aぎふだいこん部会の岐阜市則武、鷺山地区の部会役員3名を対象に、独自G A Pの現地調査が行われた。内部監査員である部会役員と、J Aぎふ、J A全農岐阜、農業普及課の担当者が部会員宅を訪問し、岐阜県G A P確認制度に基づく46点検項目について、聞き取りや現地確認などを行った。

46項目中38項目については、全員が適正管理できていたが、清掃記録や肥料及び農薬の在庫記録が整備されていないなどの事例が確認され、今後は、事務局であるJ Aから生産者に対して記録様式等を配布し、記録・記帳の徹底を図り改善することとした。

今後、農業普及課では、調査結果を取りまとめ、改善が必要な項目についてのフォローアップと岐阜県G A P確認制度の取組みに向けた支援を行っていく予定である。



【G A P現地調査の様子】

(園芸産地支援第一係・高橋幸蔵)

■アスパラガス 春芽目揃会開催

4月13日、J Aぎふ下中支店において、J Aぎふ羽島市アスパラガス部会が、春芽目揃会を開催した。

最初に、岐阜市中央卸売市場の岐果岐阜青果(株)の担当者から情勢報告があり、春芽は3月上旬から九州などの太い商品が多く出荷されていたが、立茎時期に入ると出荷量が少なくなってきたので、どんどん出荷して欲しいとの激励の言葉があった。

農業普及課からは、今年作成した防除暦に基づき、病害虫の基本防除のポイントと農薬の安全使用について説明した。今後も、アスパラガスの安定生産に向け、栽培管理の指導や情報提供を行う予定である。



【目揃えの様子】

(園芸産地支援第一係・山田雅幸)

住みよい農村づくり

■いちご ぎふ清流ハーフマラソンで岐阜いちごP R

4月22日、岐阜市で開催された第8回ぎふ清流ハーフマラソンにおいて、J Aぎふ岐阜市いちご部会青年部と岐阜市が、岐阜市産いちごのP R活動を行い、農業普及課も支援した。

ヘタ取りした濃姫や美濃娘のいちご3粒が入った紙コップをランナーに手渡し(総計450kg)、岐阜いちごをP Rした。このP R活動は、今年で6年目になることから、いちごの提供を楽しみにしているランナーも多く、好評であった。

今後も、農業普及課では、岐阜いちごのP Rや消費拡大に繋がる活動を積極的に支援していく予定である。



【岐阜いちごを配布】

(園芸産地支援第一係・三和浩一)